

【収蔵作品が海外から戻ってまいりました！】

ゴッホの作品を数多く所蔵し、世界中から多くの来館者が訪れるゴッホ美術館とアメリカの主要美術館の一つであるセントルイス美術館。この二つの美術館が共同で企画・開催した展覧会に出展しておりました2点の作品「羊の毛を刈る女」、「洗濯する女たち」が戻ってまいりました。

新型コロナウイルスの感染が世界中に広まり、セントルイス美術館でも4月から6月にかけては美術館が休館となってしまいました。当初は5月に展覧会を終え、作品は6月に日本へ戻る予定でしたが、美術館再開後、展覧会の会期は9月まで延長され、このほどようやく会期が終了し、当館へ戻ってきたものです。

ヴァンゴッホ美術館 2019年10月4日－2020年1月12日
(オランダ・アムステルダム)

セントルイス美術館 2020年2月16日－2020年9月7日
(アメリカ・セントルイス)

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814-1875) は19世紀後半になってから、広く評価された画家ですが、この展覧会では彼の様々な表現から、近代美術の歴史に影響を与えた画業の重要性に焦点が当てられていました。ミレーの革新的な絵画技法、モダンなスタイル、そして農民生活のインスピレーションに満ちた描写は、現代美術へと繋がっています。そして彼の作品が、ゴッホ、モネ、ムンク、ダリなどの有名なアーティストの芸術活動にどのような影響を与えたのかを探求したこの二つの展覧会には、世界各国から多くの人々が訪れたということです。



「羊の毛を刈る女」



「洗濯する女たち」